

健康創造都市 KOBE 推進会議／令和 3 年度幹事会 概要

- 日 時 : 令和 3 年 12 月 21 日 (火) 13:30~14:30
- 場 所 : Zoom によるオンライン開催 (オンライン開催)
- 出席団体 : 47 団体
- 議 事 :

1. 開 会

●開会挨拶 花田健康局長

- ・ワクチン追加接種への準備を進めており、個別の接種会場の確保のため、医師会、民間病院に協力を仰いでいるところ。あわせて大規模接種も最大限に取り組む。
- ・感染対策としては、コロナ受け入れ病床 52 床増やし体制強化を行うとともに、宿泊療養施設の 6 か所目を開設。相談が多い、後遺症相談窓口についても 11 月に開設した。
- ・高齢者の外出控えによるフレイル予防のため、シニア健康相談ダイヤルを開設した。
- ・健康創造都市 KOBE 推進会議も 4 年目を迎えたということで、今年度からは、コンテンツ部会や健康経営部会を部会長主導にすることで、運営。
- ・産官学民の連携による「健康創造都市 KOBE の推進」に引き続きご協力をお願いしたい。

2. 議 事

(1) 健康創造都市 KOBE 推進会議の進捗状況について【資料 1】

●事務局より【資料 1】について説明

- ・現在の参画団体は 105 団体
- ・3 部会に分かれてプロジェクト単位で自律的に推進
- ・神戸市民の健康増進のために開催される行事については健康創造都市 KOBE の後援名義使用可能

(2) コンテンツ部会の取り組み報告について 【資料 2】

●コンテンツ部会・部会長 (江崎グリコ株式会社・古屋敷部会長) より【資料 2】について説明

- ・神戸市民の健康増進に貢献することを目的として、具体的な活動は 5 つのプロジェクトにおいて議論を進めている。

①PJ1 : 神戸市民の健康リテラシーを向上させる活動

- ・健康創造都市 KOBE 推進の HP を作成し、健康情報を広く発信。
- ・2 月の公開を予定。

②PJ2 : 高齢者の介護予防

- ・ロコモフレイルについて議論中

③PJ3 : 妊娠期から中年までの栄養課題の改善のための活動

PJ3-1：妊娠期の女性の栄養課題の解決

- ・カロママプラスアプリの妊産婦コースなどを活用した啓発や食育・栄養指導ができないか、議論中。

PJ3-2：朝食欠食改善プログラム

- ・どういう気付きを与えれば朝食を習慣的に食べるようになる介入検証を実施中。

④PJ4：中高年から高齢者の認知機能向上のための活動

- ・脳機能に着目したフィンランドの FINGER（フィンガー）研究の神戸版として、運動・脳トレ・栄養といった3本柱でコンテンツ提供をすることで、認知機能の低下予防ができないか、実証実験の実施を計画中。費用面に課題。

⑤PJ5：健康無関心層の行動変容を促すための活用

- ・参画企業内で「食」「糖尿病」などといった様々なテーマを考え、具体的な取り組みを検討中。
- ・ウォーキングイベントをR4年3月中旬に開催予定。健康創造都市推進会議発で開催することに意義があると考え。懸案事項は、集客、コロナ対策、コスト配賦方法（フジッコ豊田様より）

●質疑応答・コメント

コープこうべ・高島様：

- ・健康経営に関するコラム掲載を準備している。またコープこうべとして、健康づくりセミナーを開催した。12月から開始の朝食欠食改善プログラムにも協力しているところ。
- ・コープこうべとして今年で100周年も迎える。引き続き健康づくりに携わりたい

(3) 健康経営部会の取り組み報告について【資料3】

●健康経営部会・部会長（明治安田生命・本松部会長）より【資料3】について説明

- ・健康経営啓発活動として、健康経営に関するメルマガを月1回配信
課題としては、メルマガの配信材料の協力企業が少ないこと。
- ・岡田先生、アシックス等の講演による、こうべ健康経営会議を開催
課題としては、オンライン配信の形をとったことから、一方通行的な開催方法になり、企業交流の機会が設けられなかったこと。
- ・副部会長である日本イーライリリーを中心に、健康経営実践プロジェクトチームを実施。「見えない多様性に優しい職場づくり」を念頭に、ワークショップツールを開発。今度、認知度を高めていくことが課題。
- ・次年度も、メルマガ発信を部会全体に展開するとともに、こうべ健康経営会議を開催したいと考えている。さらに見えない多様性に優しい職場づくりプロジェクトの展開も拡大していきたい。

●質疑応答・コメント

神戸ポートピアホテル・橋本様：

- ・健康経営優良法人に認定されている。ホテルで働く立場として、まずは社員たちが健康でいることが大切。
- ・外部との交流・発信を積極的に行いつつ、ホテルならではのサービス・発想にも着目しながら取り組みたい

(4) 健康データ利活用について【資料4】

●健康データ活用専門官より【資料4】について説明

- ・健康の定義は広く、幅広いデータを取得し、追いかける必要がある
- ・市の施策としても科学的根拠に基づく必要がある
- ・上記を達成するために網羅的にデータを収集するために、MCK・ヘルスケアデータ連携システムを整備し、ヘルスケアシステムはR2年11月運用開始
- ・MCKは、個人への任意の健康サービス。
ヘルスケアデータ連携システムは、任意ではなく、保健事業で収集するデータ（高齢者医療レセ、介護レセ）を個人単位で紐づけし、研究利用できるようにした。対象データは50万人強
- ・具体的な活用状況を紹介
(生活習慣病新規発症年齢)
 - ・経年的にデータを追いかけて、保健事業として発症年齢を下げられるようにしたい。
 - ・ビッグデータを活用しないと分析は難しい。
(レセプトデータを用いたCOVID-19の疫学研究)
 - ・コロナ禍においても緊急手術は適切に実施されていたことが判明
 - ・研究結果より有事の際の市の施策の検証等にも活用が可能
- ・現時点での健康データ利用実績は13件。新しい知見、サービスを生み出すことを目指して取り組んでいる。
- ・現在、個人のデータを公益のために利用するようになってきたが、今後は、公益データを公益に使うためだけでなく、個人にも活用していきたいと考えている。

●田守座長よりの研究紹介：肥満度と肥満に合併する健康障害の検討

- ・コロナも肥満に関連する疾患と考えられている。
- ・神戸宣言2018では、日本医学会連合23学会が領域を超えて協同し肥満症撲滅を目指すとしてされている。
- ・肥満を改善すれば糖尿病改善には効果がありそうだが、脂質異常症には効果が薄い可能性もある。肥満症患者の現状の正確な把握が必要。
- ・ヘルスケアシステムを利用し、肥満症に関連する病名や合併症の実態を解析する

●質疑応答・コメント

医療産業都市推進機構・河野様：

- ・従来からビッグデータはあるが、利用するまでの道のりは程遠い。
- ・50 万人強のデータが連結され、匿名加工されたヘルスケアデータ連携システムは研究者にとって魅力的。
- ・市民と産学官が情報を共通できる基盤は持続可能な社会を創り上げる社会インフラであると考えている。市民にも理解を得た上で、研究を進め成果を報告することが重要。ヘルスケアデータ連携システムが、研究者が神戸に集まってくる必要な社会基盤として引き続き運用を期待したい

3. その他

・新型コロナウイルス感染症の対応状況について【資料5】

●熊谷副局長より【資料5】について説明

- ・直近2日の感染者数は連続0件。昨年は1日50件程度だったので、落ち着いている
- ・昨年度は年明けに感染爆発したことから注意が必要な状況。
- ・ワクチン接種は全国トップレベルのスピードで実施。
- ・第6波の備えとして、積極的な検査の強化（高齢者・障害者施設、飲食店検査も実施）、健康科学研究所において、国に先駆けて変異株の監視体制を整備するほか、病床確保（411床確保）、早期対応者による重症化防止として、酸素投与設備を宿泊療養施設にも配置。後遺症対策として、適切な医療機関へつなぎ、後遺症の実態調査の実施予定。さらに、コロナ対応業務のデジタル化、疫学調査の迅速化、自宅療養者夜間コールセンター設置するとともに、外国人コロナ検査相談コールセンターを設置予定。
- ・健康2次被害対策として、シニア健康相談ダイヤルを設置。医療機関、フレイル予防デイサービス、アシックス運動プログラムの紹介を実施している。

以上